縄文時代

名前

問1　縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。
（2018年 香川県公立入試 類似）

1. 貝塚
2. 高地性集落
3. 古墳
4. 環濠集落

問2　縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。
2. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。
3. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。
4. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。

問3　縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
2. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。
3. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。
4. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。

問4　2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方を何と呼びますか。（2026年 埼玉県公立入試 類似）

1. 中央集権社会
2. 持続可能な社会
3. 高度情報化社会
4. 多文化共生社会

問5　日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
（2023年 徳島県公立入試 類似）

1. 吉野ヶ里遺跡 ― 弥生時代
2. 三内丸山遺跡 ― 弥生時代
3. 三内丸山遺跡 ― 縄文時代
4. 登呂遺跡 ― 弥生時代

問6　日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。（2018年 徳島県公立入試 類似）

1. 鉄器
2. 青銅器
3. 磨製石器
4. 打製石器

問7　縄文時代における自然環境の変化と人々の暮らしの関係について、正しい背景を説明しているものはどれですか。（2022年 山口県公立入試 類似）

1. 大陸と陸続きになったことで新たな家畜が持ち込まれ、広大な牧場での放牧を主体とした生活へと移行した。
2. 寒冷化によって大型動物が絶滅したため、人々は食料を求めて移動を繰り返す洞穴での生活を余儀なくされた。
3. 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。
4. 激しい気候変動を乗り切るために、共同体で大規模な金属器の生産を行い、近隣の集落と食料を奪い合う戦争が日常化した。

問8　縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 大陸との公的な交易を行うため、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。
2. 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。
3. 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。
4. 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。

問9　青森県にある三内丸山遺跡の調査によって明らかになった、縄文時代の人々の生活や社会の様子として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 徳島県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作を基盤とし、集落の周囲に深い堀を巡らせて外敵の侵入を防ぐ生活を送っていた。
2. クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。
3. 金属器を用いた農耕が普及し、王の権威を示すために巨大な前方後円墳を築造する社会を形成していた。
4. ナウマンゾウやヘラジカなどの大型動物を狩るため、特定の拠点を持たずに獲物を追って移動を繰り返していた。

問10　三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。
2. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
3. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。
4. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。

問11　紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。
（2016年 愛知県公立入試 類似）

1. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いながら移動して生活していた
2. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた
3. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた
4. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた

問12　縄文時代の遺跡から出土する、表面に縄目の文様が施されたり、大きな眼鏡のような目を持つ「遮光器土偶」などの土製品について、その当時の使われ方として最も適切な説明を選びなさい。（2026年 千葉県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった仏教の教えに基づき、寺院の内部を飾るための仏像として使われた。
2. 稲作が普及した社会において、収穫した米を保存するための頑丈な容器として使われた。
3. 食物の豊穣や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。
4. 亡くなった豪族の墓である古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めるために使われた。

問13　縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した
2. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ
3. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた
4. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった